

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 貿易赤字は過去最大を更新 (05年9月貿易統計)

発表日: 05年11月10日(木)

~ スト等によって輸出が減少した中、天然ガス、石油製品等の輸入が増加した ~ (No. UI - 141)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001: seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

貿易収支 (U.S. International Trade in Goods and Services)

	貿易収支			輸出		輸入			
	Balance	財 Goods	サービ Services	Exports	財 Goods	Imports	財 Goods		
04/09	519.39	556.27	+36.88	+1.2	(+13.3)	+1.4	0.7	(+17.0)	0.4
04/10	555.74	594.32	+38.58	+0.9	(+11.4)	+0.4	+3.0	(+18.9)	+3.3
04/11	589.78	632.32	+42.54	+0.1	(+8.7)	0.9	+2.3	(+20.9)	+2.4
04/12	546.72	595.14	+48.42	+3.1	(+12.3)	+3.5	0.8	(+16.4)	1.0
05/01	585.76	626.97	+41.21	+0.5	(+14.2)	+0.8	+2.8	(+18.6)	+2.9
05/02	604.22	647.39	+43.17	0.8	(+9.8)	1.2	+0.6	(+17.1)	+0.9
05/03	540.55	588.94	+48.39	+1.4	(+8.0)	+1.1	3.1	(+10.4)	3.7
05/04	577.24	623.16	+45.92	+2.8	(+12.0)	+4.2	+4.2	(+14.4)	+4.9
05/05	561.09	607.82	+46.73	0.0	(+9.7)	0.1	1.0	(+11.5)	1.2
05/06	594.93	638.31	+43.38	+0.1	(+12.3)	+0.1	+2.1	(+10.8)	+2.3
05/07	579.60	625.40	+45.80	+0.5	(+10.6)	+0.7	0.6	(+11.4)	0.5
05/08	593.48	640.62	+47.14	+1.5	(+11.9)	+2.2	+1.8	(+11.0)	+2.3
05/09	661.06	711.26	+50.20	2.6	(+7.7)	4.3	+2.4	(+14.5)	+2.7

(注1) 季節調整値。貿易収支の単位は億ドル。
(注2) 輸出入の数字は前月比。カッコ内は前年同月比。

	輸出					輸入				
	産業資材 *1	資本財 *2	自動車 *3	消費財 *4		産業資材	資本財	自動車	消費財	
04/11	1.0	0.7	2.0	1.4	+0.2	+2.4	+6.6	0.7	1.7	+3.3
04/12	+3.4	+3.2	+3.7	+4.9	+5.2	1.0	4.8	+0.4	+1.2	+0.3
05/01	+0.7	+1.0	0.2	+2.2	+0.7	+2.9	0.5	+4.3	+2.6	+5.1
05/02	1.2	+0.8	1.8	5.1	+0.9	+0.9	+4.1	3.6	0.7	+3.4
05/03	+1.3	0.1	+3.0	0.7	0.7	3.7	0.1	1.2	6.8	9.6
05/04	+4.2	+4.6	+5.5	+2.2	1.4	+5.0	+4.6	+7.8	+1.8	+5.1
05/05	+0.0	+1.4	2.9	1.9	+4.7	1.2	5.6	1.9	+4.9	+1.0
05/06	+0.1	0.9	+1.9	+1.2	2.2	+2.3	+5.3	+4.1	0.6	+0.2
05/07	+0.4	+1.5	+0.5	+2.0	+0.5	0.5	+1.4	2.4	+0.4	1.9
05/08	+2.6	+1.1	+3.8	+4.3	0.3	+2.2	+4.9	+0.4	+6.0	0.6
05/09	4.3	5.8	7.4	+0.0	+4.1	+2.7	+6.2	+0.9	3.5	+2.6

(注) 季調済前月比伸び率。

*1: Industrial supplies and materials

*2: Capital goods, except automotives

*3: Automotives vehicles, parts and engines

*4: Consumer goods, except automotives

	輸出						輸入					
	カナダ	中南米	E U	太平洋工業国	日本		カナダ	中南米	E U	太平洋工業国	日本	
04/09	+15.5	+14.6	+14.0	+14.7	+16.2	+7.0	+16.3	+12.0	+20.6	+7.0	+18.5	+11.3
04/10	+10.7	+9.1	+10.0	+10.3	+8.3	+16.4	+15.1	+11.3	+18.7	+6.2	+12.1	+6.1
04/11	+7.9	+14.2	+15.4	+4.1	2.7	5.1	+27.0	+22.7	+26.8	+16.5	+24.6	+14.2
04/12	+13.5	+15.3	+14.8	+17.2	+3.7	0.6	+15.9	+13.5	+15.1	+8.0	+16.4	+9.5
05/01	+12.1	+16.1	+14.3	+10.3	+5.5	+0.6	+18.1	+14.8	+17.4	+15.8	+17.0	+11.3
05/02	+7.6	+12.0	+9.5	+6.5	0.2	0.2	+16.9	+13.1	+15.4	+7.2	+22.5	+7.2
05/03	+7.4	+9.5	+5.5	+4.4	0.3	2.9	+9.6	+6.4	+13.3	+2.1	+8.8	+8.6
05/04	+12.6	+12.5	+11.9	+11.0	+6.9	4.2	+13.8	+9.0	+20.4	+5.4	+10.5	+4.6
05/05	+9.4	+12.2	+12.8	+8.6	0.6	4.9	+14.6	+8.5	+16.0	+14.1	+13.4	+8.9
05/06	+13.4	+13.4	+14.1	+12.8	+8.7	+5.2	+11.1	+3.3	+14.1	+9.6	+11.7	+8.6
05/07	+9.6	+5.3	+10.9	+9.7	+7.9	+3.6	+10.5	+4.2	+11.8	+8.2	+9.1	+2.9
05/08	+14.4	+13.9	+14.8	+6.6	+14.8	+15.7	+14.9	+13.1	+15.9	+12.7	+12.6	+8.5
05/09	+6.8	+10.4	+10.5	+3.5	+2.8	0.1	+15.7	+18.8	+14.5	+13.6	+10.6	+3.3

(注1) 末季調前年比伸び率。

(注2) 中南米はメキシコを含む(原統計の「中南米」は含まない)。

661.06 億ドルと
赤字額は市場予想を
上回った

05年9月の米国の貿易収支(サービスを含む国際収支ベース、季節調整済)は、661.06億ドルの赤字(前月比+11.4%)と前月から大幅に拡大し、市場コンセンサスの615億ドルを上回った。サービス収支の黒字額が小幅拡大したものの、財収支の赤字額が大幅に増加した。輸出は、消費財が増加したが、産業資材、自動車を除く資本財の減少により前月比2.6%と4ヵ月ぶりに減少した。8月に民間航空機が

増加した後、9月にボーイングのストによって出荷が急減した。一方、輸入は自動車が増減したものの、産業資材、消費財、自動車を除く資本財が増加したことから同+2.4%となった。なお、原油は価格が1バレル=57.32と上昇したが、輸入量が2億7845.3万バレルに減少したため前月比 2.2%となった。

今後、輸出の増加によって9月の水準からは減少するとみられるが、貿易赤字は高水準で推移する見込み

9月は輸出がボーイングのストによって民間航空機・同エンジン、半導体の減少によって縮小に転じた一方で、輸入が天然ガス、石油製品、燃料油、発電機、半導体の拡大により増加したため、赤字額は前月から拡大した。今後に関しても、原油価格が高止まりしていること、さらにハリケーン「カトリーナ」の襲来に伴うIEA加盟各国の戦略備蓄の放出決定によるガソリン、原油の輸入増が見込まれることに加え、内需の好調から原油以外の輸入も高い伸びが見込まれることから、貿易赤字は高水準で推移すると予想される。

貿易赤字を大幅に縮小させるためには、輸入が減少するか、輸出が大幅に増加する必要がある。しかし、輸入を減少させるには、国内の消費を抑制しなければならず雇用の拡大ペースが鈍化、或いは減少し、景気後退に陥るリスクがある。このため、輸入が増加するなかで輸出が大幅に拡大する必要がある。この方法としては、貿易相手国の輸入障壁の撤廃、輸出先の米国を上回る高い成長(米国輸入の所得弾性値が貿易相手国よりも高く上昇トレンドにあるため)、ドル実効レートの減価、が挙げられる。 、 については、貿易相手国の輸入障壁は簡単にはなくならず、また貿易相手国の金融財政政策が米国ほどの柔軟性に欠けるため米国以上の高い成長も期待できない。現状の貿易・経済構造では米国の貿易赤字の大幅な削減は難しいと考えられる。ドルの実効レートは、景況感・金利格差を背景に下げ止まっている。また、7月21日の元切り上げは小幅なものにとどまり、その後も水準がほとんど変わっていないため、貿易不均衡の解消にほとんど貢献していない。

ドル円相場は年末にかけてドル堅調

年末にかけて、財政支出の拡大による景気加速期待の高まりによって米国の金利が上昇し易いことに加えて、米雇用創出法の2005年末終了に伴う米国への資金還流の増加が見込まれることから、ドル需要が強まるとみられる。その後、原油価格の高止まりや成長率格差によって貿易赤字が高水準で推移すると予想され、経常赤字が大幅に縮小する可能性が低いこと、日本経済の回復感が一段と強まるなか、当座預金残高の目標額引き下げといった金融緩和策の解除が視野に入ってくると予想されることから、ドルの上値を抑制し始めよう。

対中、NAFTA、OPECでの貿易赤字額が過去最大を更新

地域別の収支では、対中国が 201億ドル(前年比+29.5%)と過去最大の赤字額となり、21ヵ月連続で地域別で最大の赤字国となった(貿易赤字全体の28.1%に拡大)。対欧州は 101億ドル(同+32.4%)と高止まりし、欧州景気を下支えしている。今後も、高水準の対欧州貿易赤字が続くと見込まれるものの、欧米金利差の拡大や欧州景気の緩やかな拡大等を背景に、ドルは対ユーロで強含み易い環境が持続しよう。さらに、対NAFTAが 117億ドル(同+30.8%)、対日は 64億ドル(同+5.7%)と高止まり、対OPECが 91億ドル(同+40.7%)と原油価格の上昇を映じて過去最大の赤字額となった。

**輸出は前月比 4.3%
と7ヵ月ぶりの減少**

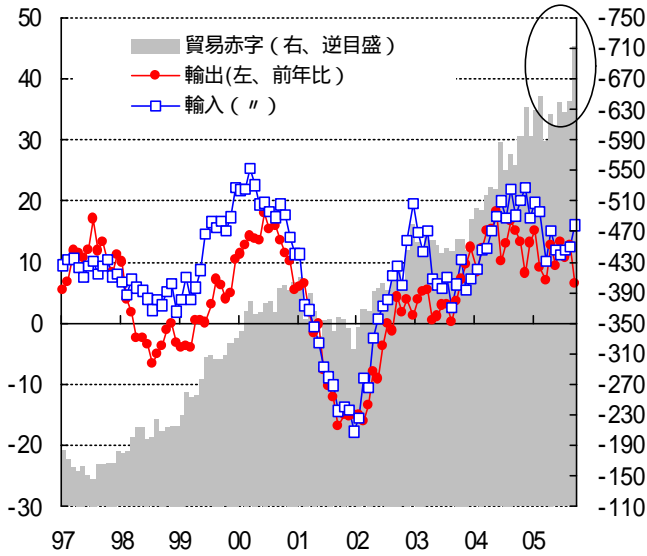
通関ベースでは、輸出は消費財が増加したものの産業資材、自動車を除く資本財が減少したため前月比 4.3%と7ヵ月ぶりのマイナスとなった。一方、輸入は自動車が減少したが産業資材、消費財、資本財の増加によって同+2.7%と加速した。

輸出の商品別内訳では、消費財は、調合薬、ダイヤモンド原石等の増加によって前月比+4.1%と2ヵ月ぶりに増加した。一方、資本財は、産業機械、計測・テスト・制御機器、通信機器、コンピューター部品、産業エンジンが増加したものの、ボーイングのストによる民間航空機・同部品の大幅減少、油田掘削機、半導体、医療器械の減少により同 7.4%と4ヵ月ぶりの減少となった。産業資材は、核燃料材が増加したものの、化学製品、燃料油、プラスチック原材料、石油製品、綿等の減少によって同 5.8%と3ヵ月ぶりに減少した。自動車は同+0.0%と横這いとどまった。

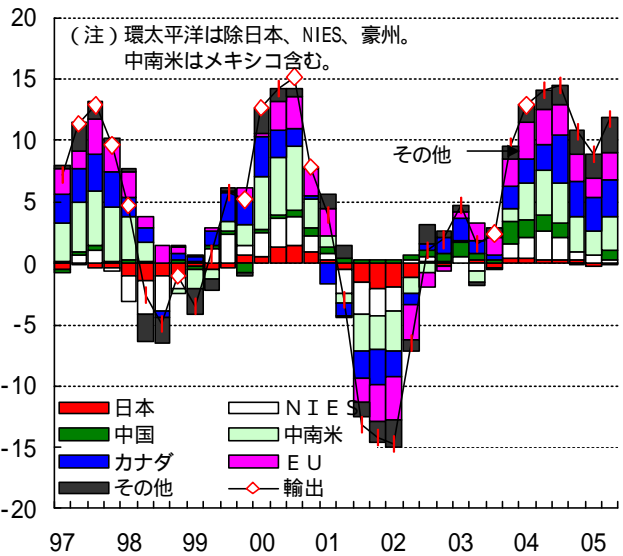
天然ガス、石油製品の拡大により輸入は前月比+2.7%と加速

輸入の商品別内訳では、自動車は前月比 3.5%と3ヵ月ぶりの減少となった。一方、産業資材は、原油、核燃料材が減少したものの、天然ガス、石油製品、燃料油、電力、化学製品等の増加により前月比+6.2%と加速し4ヵ月連続の増加となった。消費財は調合薬が減少したが、テレビ・ビデオ、アパレル・繊維関連、玩具・ゲーム・スポーツ用品、音響機器が増加したため同+2.6%と3ヵ月ぶりの増加となった。自動車を除く資本財輸入は、油田掘削機、コンピューター、産業機械、通信機器が減少したものの、民間航空機、発電機、半導体等の拡大により同+0.9%と2ヵ月連続で増加した。

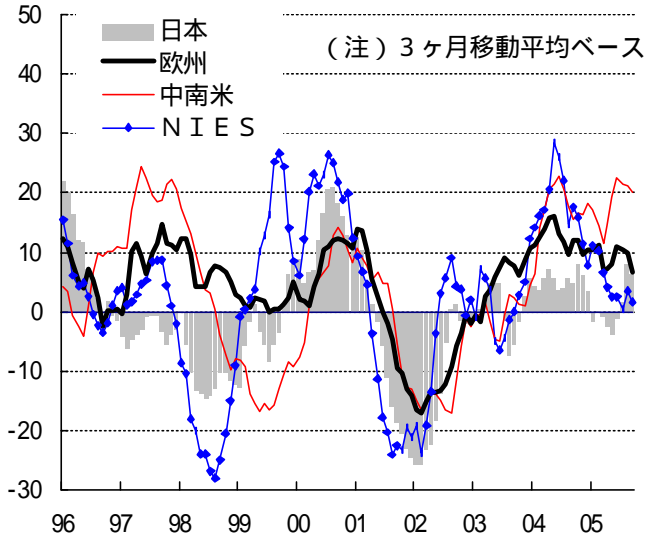
(%) 米国貿易動向 (財、BOPベース億ドル)



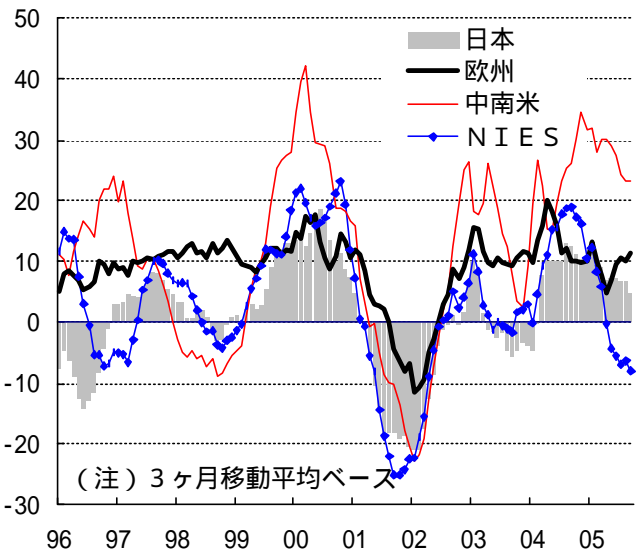
(%) 通関輸出地域別寄与度 (前年比) の推移



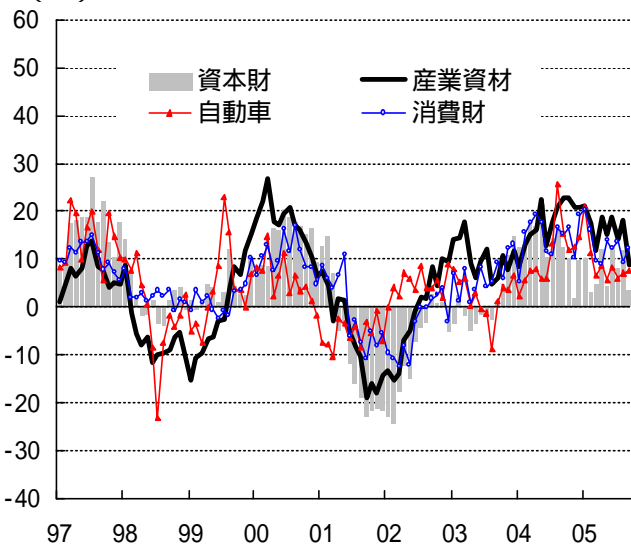
(%) 地域別輸出 (前年比)



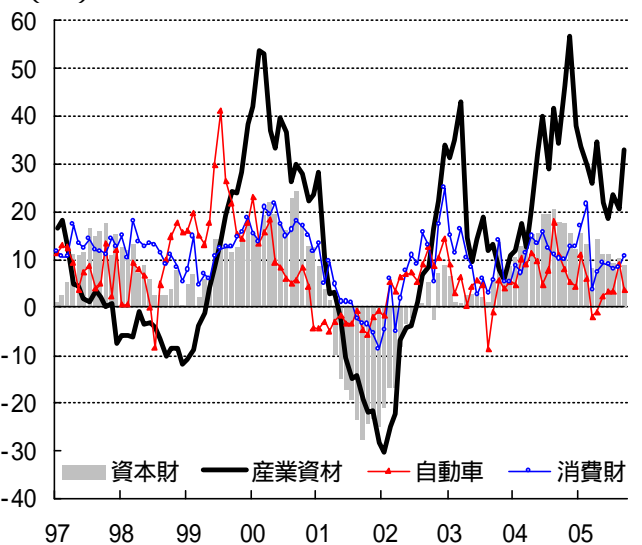
(%) 地域別輸入 (前年比)



(%) 財別輸出の推移 (前年比)



(%) 財別輸入の推移 (前年比)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。